

士魂商才の精神で安定経営目指す

私たちの時代

35



楠木流通社長

武内 暁男氏

1986年5月3日生まれ、大分県日田市出身。南山大学経済学部を卒業後、地元の金融機関を経て楠木流通入社。2018年に社長に就任。

前期は取扱量過去最高

楠木流通(大分県日田市)は1961年に創業した。私は4代目社長に就任して5年目となる。当社は月に2回原木市を開いており、2022年7月期の年間取扱量は約13万立方メートルで過去最高だった。23年同期は11万5千立方メートルになる見込みだ。そのうち委託販売が6割、社有林の販売が4割で、社有林の割合を増やしてきている。社員数は24人。

選別機の更新などで能力や集荷力を増やしてきたことで、ここ10年で取扱量は2倍になった。選別機は合計3台あり、昨年1台更新した。今後しばらくは大きな設備投資は予定していない。土場の収容能力は12万立方メートル。需給バランスを保てるよう、当面は現状の取扱量を維持していく。

私は大学卒業後地元金融機関に就職し、得意先係と融資係を経験した。社会人としての根本的なことや数字を見る力を学んだ。3年目から県外の支店に異動になり、それまでルート営業が中心だったが、飛び込み営業も行うようになった。

この経験が後に社有林を増やす営業を行う際に役に立った。

当社の位置する日田市には多くの中小製材所が点在し、7つの原木市場に買い手が訪れる。林業・木材産業は日田にとって基幹産業だ。規模の大きい製材工場は川上と直接取引しているところも多いが、中小製材所が多いため、多く残っているため売れ行きを保つことができていく。公平性を保つため、極力特売ではなく市場売りにかけるようにしている。

大分県が上昇してきたことも影響し、経営改善が

かす、長い目で見た経営を行っていききたい。

私が当社に入社した約10年前は丸太価格が過去最低だった。そのため周辺の原木市場も含め、木材業界全体が疲弊していた。当社に帰ることを決めた際は、木材業界のそのような状況を知っていた同僚から「もう少し考えた方がいい」と心配された。

入社後、原木市場のビジネスモデルや業界の理解を深めていくなかで、当社も含め業界全体が思っていた以上に疲弊していたことを知り、先代である父がここまでよく経営を維持してきたことを実感した。その後は消費増税、バイオマスと輸出需要の増加などにより丸太の価格が上昇してきたことも影響し、経営改善が

環境調整、ハラスメントへの対応などにも尽力している。6、7年前に年間87日だった休日を105日に増やした。最終的には週休2日制にしていききたい。

新しい機械を導入することで肉体的労働を軽減させ安全性を確保しようという取り組みもできた。約40年前からエアコン付きで4面に囲みのあるリフトを使用している。ログローダーを西日本で初めて導入するなど、ハエ取り作業の効率化は特に重視しており、先代のころから日本一だと自覚している。

業界の課題は林業経営だ。30、40年前から補助金なしでの林業経営は成り立たなくなっている。昨年ウッドショックが起きた際は、このままの価格が維持できれば林業が生き返ると思った。ウッドショックは国産材の重要性を理解してもらえなかった。丸太の価格を上げさせ、育林、造林の従事者を育てていかねばならない。SDGsの観点からも林業の重要性を示していかたい。

林業事業者と協力し、社有林の造林や育林も行う。当社としては集荷能力を大事にしていく。営業トップが高齢化しているため若手の育成にも取り組む。長く経営を維持していききたい。誰が抜けても事業が成り立つよう、社員一人ひとりが様々な仕事をできる体制を作っていく。

次回(21日)、北岡幸一丸和林業グループ社長

渡辺パイプが中心となるセディナグループの公益財団法人セディナが主催する「明日の農業コンテスト」が、9月15日に行われた。

全国の農業高校30校から503作品の応募があり、セディナ財団賞(最優秀賞)は山形県立村山産業高校の森谷岳流さんの「サトイモは儲かる! 隠れた辛い農業」をどうすれば

煮需要から農業を考えた「が受賞した。また、金賞には広島県立西条農業高校の原田美紀さんの「稲作農家における循環型農業の実現に向けて」が、京都、渡邊元理事長(元理事長)主催の「第6回高校生コンテスト」の表彰式が、9月15日に行われた。

全国の農業高校30校から503作品の応募があり、セディナ財団賞(最優秀賞)は山形県立村山産業高校の森谷岳流さんの「サトイモは儲かる! 隠れた辛い農業」をどうすれば

は持続可能で発展的な産業にできるか、全国の農業高校に通う1、2年生を対象に日々の学びのなかから考えたアイデアをレポートとして応募するコンテスト。2016年から開始し、第6回を迎えた今回は、21年11月1日〜22年4月15日にかけて、「わたしはこんな方法で農業を元気にする」をテーマに2000〜3000字のレポートを募集した。厳正な審査のうえ、セディナ財団賞1作品、金賞3作品、銀賞5作品、銅賞10作品、学校奨励賞2校が決定した。

経営するうえで士魂商才の精神を大切にしている

武内 暁男氏

経営するうえで士魂商才の精神を大切にしている。武内 暁男氏の才を兼ね備えるという意味で、渋沢栄一が提唱した理念だ。秩序社会で定められたルールはもちろん、道徳を順守し社会に貢献し、そのうえで会社経営も維持していきたい。社会に必要とされる会社でありたいと思う。

当社は先代のころから働きやすい環境作りを重視してきた。その結果、社員の家族や知人の紹介などで人員増加にもつながるなど人材募集には困らないようになった。給与は日田市や大分県の平均を大きく上回る水準を維持している。休日増加や労働

脱炭素経営の支援に向け協定締結

鈴与商事(静岡市、伊藤正彦社長)と静岡銀行(同、柴田久頭取)は9月30日、地域企業等の脱炭素経営の支援を目的とした「脱炭素経営の取り組み支援に向けた包括連携に関する協定書」を締結した。

鈴与商事は、CO₂排出量の可視化から省エネ・脱炭素計画策定支援・設備改善工事、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)などの様々な指標に対応するサービスを提供している。静岡銀行グループは「サステナブルファイナンス目標」を設定して、顧客の環境負荷低減の取り組みを資金面で支援

プチまち菜園で出展

大建工業(大阪市、徳田正則社長)は12月14日の3日間、幕張メッセ(千葉市)で開催される「国際ガーデン&アウトドア EXPO」にプチまち菜園で



プチまち菜園の提案例